

3月1日現在

前月比	
人口	76,343 (-144)
男	36,584
女	39,759
世帯数	20,057 (-27)

おおだて

4月号 (No. 189)

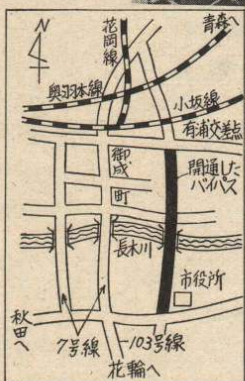
● 編集と発行 — 大館市役所
(電話) 2-1212
● 発行年月日 — 昭和48年4月1日
● 発行日 — 毎月 1 日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布しています。届かなかったり、配布が遅いときは、総務課庶務係へご連絡ください。

昭和43年3月1日第3種郵便物認可 (1部5円)

市役所 ←→ 有 浦

大館バイパス開通



＜バイパスの概要＞

市役所 ←→ 有浦

- ＜総工費＞ 6億5,000万円
- ＜延長＞ 1,414m
- ＜道 巾＞ 車道 6.5m
- 歩道 1.5～2.0m

国道7号線の大館バイパスが完成し、さる3月8日、有浦交差点付近で開通式が行なわれました。大館市主催によるこの開通式には、井上東北地方建設局長、市そして工事関係者など150人が参列、多数の市民が見守る中で神事について市長など6人でテープを切ったあと、参列者全員で市役所前まで通りぞめし、完成を祝いました。

7号線の大館バイパスは、市街地の交通渋滞の解消をはかるため計画されていたもので、すでに有浦、釈迦内間は第1期工事として44年度に開通しています。今度の有浦、市役所間のバイパスは、本市が「建設省直営」で実施するよう強く要望していたもので、結局、この要望がみとめられ全国でもめずらしいとされている「市街地を走るバイパス」が4年ぶりで開通したわけで、開通とともに利用する車が多く、市街各路線の交通緩和に大きな役割をはたしています。

＜高層ビル火災に備え＞

屈折ハシゴ車を購入

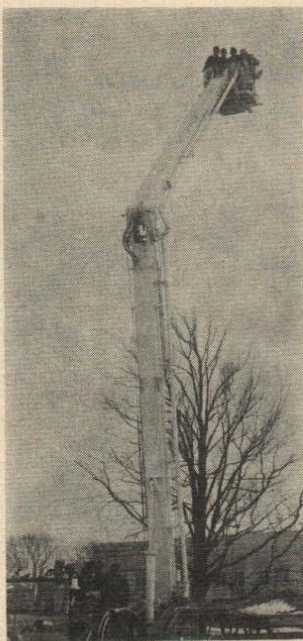
市が47年度予算で発注していた屈折ハシゴ付消防自動車(1,696万円)が2月28日に到着しました。

消防署では到着と同時にハシゴ車の取り扱いの訓練を重ねていたところ、1週間足らずで操作を修得し、その訓練の結果とハシゴ車の威力を消防記念日(3月7日)に庁舎前で披露しました。

大館市でハシゴ車を購入したのは今度がはじめてのことであり、ハシゴ車披らうの様子をみていた市民は、その巨大なボディと速やかに上空にのびていくハシゴを驚きのまなざしで見つめていました。購入した屈折ハシゴ車は、旋回、屈折自由の2段式塔と称し、車の全長が9.10mで、総重量にして13トンのいわゆるジャンボ消防自動車です。

屈折ハシゴの先端(作業台)は地上から16mに到達(最大起立角度80度)するほか、上塔は下塔に対して135度の範囲で旋回でき、4階建てのビルディングの火災の消火は十分可能です。

また、作業台の昇降操作はインターホーンスピーカーを使用して両方のできるようになっております。とくに、作業台が電線に近づいた場合、それを警報する「感電警報装置」もついております。この屈折ハシゴ車はその消火性能はもとより、作業員の安全対策面からいっても、すぐれた消防自動車であるといわれています。



● 昭和41年3月22日指定

秋田県指定重要文化財

- ＜所在地＞ 大館市曲田80
- ＜所有地＞ 盛岡市上田町
日本ハリスト正教会教団
盛岡教区北鹿ハリスト正教会
- ＜管理者＞ 大館市中山宇中山92
佐々木純一氏

北鹿ハリストス正教聖堂



曲田のつり橋のたもとに立つと、部落の家並みの間から、教会の赤い屋根と白の十字架が見えます。これが明治25年7月31日、当時熱心なハリスト教の信者であった曲田部落の島山市之助氏が私財を投じて建てた聖堂です。

聖堂は、東京神田のニコライ堂を模してつくられたビザンチン風の木造建物でハリストス正教の聖堂としては、全国でも最古のものといわれています。

建物の外観はきわめて素朴ではあるが内部はみるべきものがあります。すなわち、聖所の四方はアート型につくり、中央は八角ドームで、この天井からシャンデリアが吊り下げられているなど、明治時代の擬洋風建築としても文化史的価値が高いとされているところです。

＜注目をおつめる聖像画＞

建物の稀少価値もさることながら、この聖堂内にはりめぐらされている数々の聖像画は、すぐれた美術品としての香り高さをもつものばかりで、専門家の間で注目されています。昭和44年、文化庁東京国立文化財研究所の岡畏三郎第二研

究所長が来所して調査したところ、すくなくとも4点は、聖像画を専門に描いた女流としては、日本で初めての油絵画家山下りん女史の作ということがわかっており、市の教育委員会で国宝の指定を受ける準備をすすめているところです。

ところで、ハリストス正教について若干記してみると、このハリストス正教は安教6年(1859年)に來日したロシアのニコライ大主教の伝導によって日本に広められたもので、宗派はキリスト教のギリシャ正教会の系統に属し、東京のニコライ堂がその総本山になっています。

信者は、北鹿地方に14～15軒ほどにすぎませんが、ひところは曲田部落だけで数10軒もあった信者が戦争を境いに激減し、いまでは曲田部落には2軒しかない。このように、信者の減少と散在により、曲田聖堂に信者が集えるのは4月の復活祭、お盆ごろの巡回礼拝とクリスマスの3回ですが、この日は、讃美歌と敬けんな祈りの中で「聖体礼儀」(ギリシャ正教ではミサ)がおごそかに行なわれます。